

加賀市定住促進協議会
第4回 加賀市版「生涯活躍のまち」検討部会

加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画検討資料

平成29年1月17日（火）

加賀市版「生涯活躍のまち」構想 (概要版) (素案)

基本コンセプト

新たなチャレンジに向かう若者や元気な中高年齢者の移住を促進するとともに、既に加賀市で暮らす住民と新たに移り住んできた住民が、一緒に住みやすい地域をつくっていく

ローカルベンチャー

創業にチャレンジする若い世代
地域資源を活かしたベンチャー起業型地域おこし協力隊
地域資源×人材

若者等就労支援

ジョブチャレンジ OJTによる研修
若者の居場所 次のステージ作り
地域産業担い手確保
就労の場×人材

その他移住定住促進

加賀市定住促進協議会
(企業連携・魅力発信等)
PLUS KAGA PROJECT
(次世代担い手育成等)
移住者支援 等

加賀でチャレンジしたい 加賀ではじめたい、という人材を迎えられる地域づくり
加賀で育ち、住み続けたいと思えるまちづくり

加賀市版「生涯活躍のまち」

既に加賀市で暮らす住民も、新しく来る方も、みんなつながりあい、住みたい、住み続けたいと思えるまちづくり

人と人がつながる仕組み

×

地域資源を活かしたブランディング
(温泉・ものづくり・歴史・自然)

基本方針

加賀市版「生涯活躍のまち」では、都市部からの中高年齢者の移住を促進するだけでなく、若い世代の移住も視野に、既に加賀で暮らしている人も含め、加賀に来たい、住み続けたいと思える地域づくりを推進します。そのために、地域資源や既存産業、既存の取り組みとの連携を重視した、加賀市らしいまちづくりに取り組みます。

I 既に加賀市で暮らす人も、新たに加賀市で暮らす人も、ともにつながりあう

新たに加賀に来たいという人を迎えられる地域づくりとして、既に加賀で暮らす住民に注目した地域づくりを重視。地域の人と人とのつながりを高めることで、新たな人材を受け入れられる地域づくりにつなげます。

II 将来にわたり持続可能なまちを目指し、次世代の「人づくり」と連携

若い世代の移住促進事業である「ローカルベンチャー育成プロジェクト」、「若者等就労支援事業」と連携するほか、加賀で育つ子どもや若い世代も巻き込んだまちづくりを進め、未来の地域の担い手育成に取り組み、将来にわたり、世代が偏らない、持続可能なまちづくりを進めます。

III 地域資源を活かした加賀市らしいまちづくり

「ものづくり」、「温泉」といった特徴的な加賀市の地域資源を中心に、自然や歴史文化、地域産業を活かした地域ブランディングを行い、加賀市らしさを移住促進に活かすとともに、加賀市で住み続けたいと思えるまちづくりをすすめ、加賀市らしいまちを継承していくことを目指します。

移住促進・新しい力

まちづくり

加賀市版「生涯活躍のまち」構想（概要版）（素案）

加賀市版「生涯活躍のまち」がもつべき機能



- 多世代交流**
人のつながりづくりや見守りを担う地域交流拠点
- 活躍の場**
社会参画、生涯学習等の生き甲斐を感じられる場づくり
- 多世代向け住まい**
若者向けシェアハウス アクティブシニア向け賃貸
- ブランディング**
日常から地域特性に触れ、誇りを感じられる仕組み
- 健康増進・ケア**
地域包括ケアとの連携、つながりによる介護予防
- 多世代移住促進**
PLUS KAGA PROJECT等 担い手育成事業との連携

加賀市版「生涯活躍のまち」の効果

移住促進	アクティブシニアや若い世代の移住が促進され、地域に新たな人の流れが生まれます。
雇用創出	ローカルベンチャー育成プロジェクトや若者等就労支援事業とも連携し、地域の就労機会を拡大させていきます。
定住促進	このまちに住み続けたい、戻ってきたいと思う人が増え、定住促進につながります。
健康増進	地域で暮らす人の孤立を防止、生きがいを感じながら暮らす人が増え、介護予防、健康増進につながります。
地域活性	地域に新たな視点や力が投入されるほか、地域の既存ストックの活用、ブランディングが進み、活気が取り戻されます。
他事業効果促進	産業振興行動計画や移住定住促進、子ども・子育て支援事業計画、高齢者お達人プランなど、様々な取り組みの効果を促進することが期待されます。

加賀市版「生涯活躍のまち」の進め方

● 実施地域選定

カバーエリア	顔の見える関係が作られる範囲を重視。 第2次加賀市総合計画で設定した7つの地域拠点をベース。
地域選定	空き家、空き施設など既存ストックを活用。 「ローカルベンチャー育成プロジェクト」 「若者等就労支援事業」との連携も踏まえ、 モデル地域を選定。
モデル地域候補	旧山中温泉医療センター跡地をモデルにプロジェクトを推進。 進捗を見ながら、順次実施地域を広げる。

● 評価・推進体制

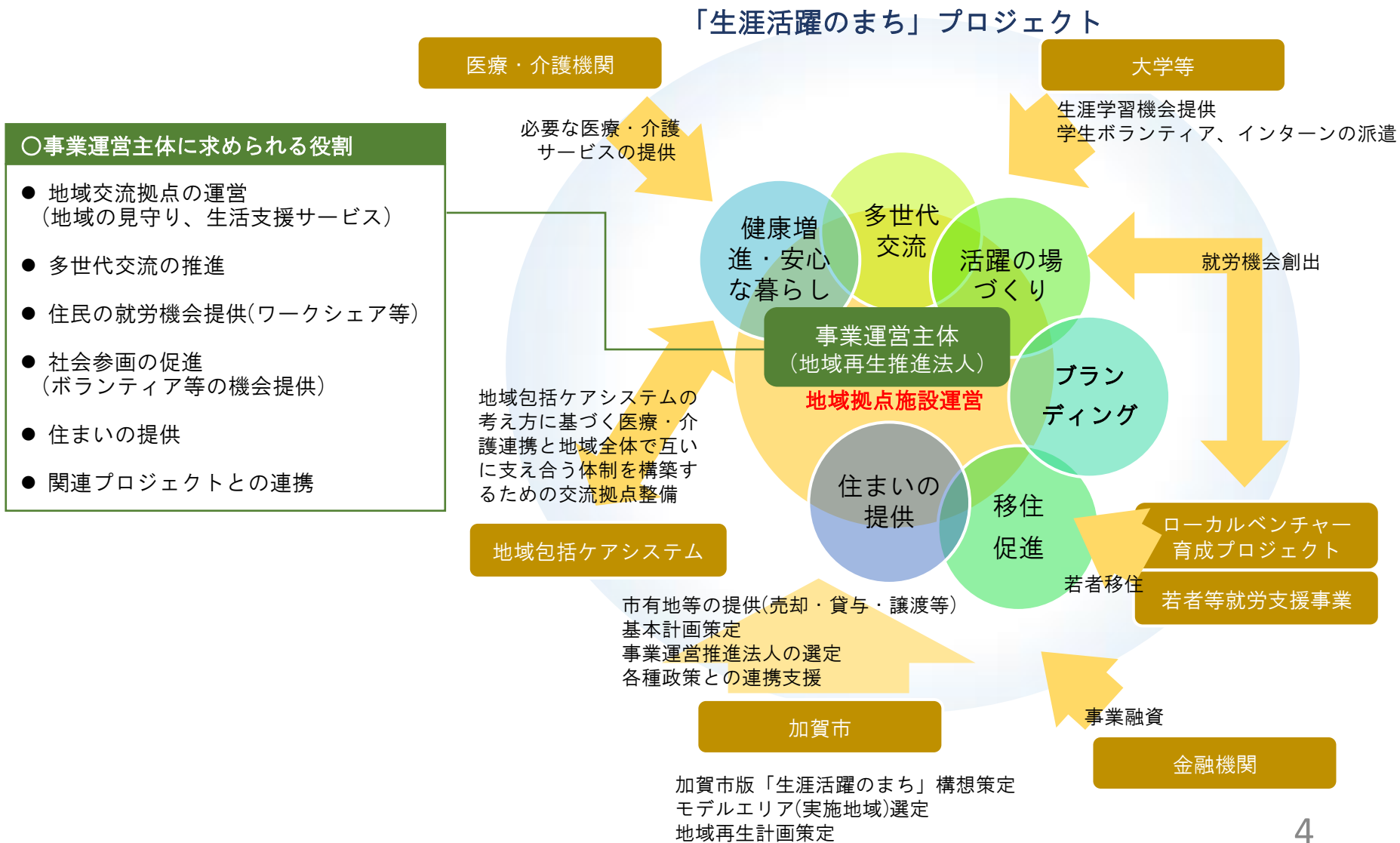
評価・推進体制	加賀市、事業運営主体（地域再生推進法人）、連携機関、地域住民等による地域再生協議会を設置。
---------	---

運営推進法人

運営推進法人の役割	地域交流拠点の運営(地域の見守り、生活支援サービス)、多世代交流の推進、活躍機会の提供、関連プロジェクトとの連携等。
想定される運営法人	民間事業者を想定。 地域の特性を踏まえたプロジェクト内容により、様々な形態を検討。
選定の考え方	加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画に基づき、公募。モデルプロジェクトで対象の絞り込みも想定。

加賀市版「生涯活躍のまち」構想（概要版）（素案）

加賀市版「生涯活躍のまち」プロジェクト実施体制イメージ



○加賀市版「生涯活躍のまち」基本計画プロジェクトエリアの考え方

プロジェクトエリア（プロジェクトがカバーするエリア）

日常生活圏域に合わせ、山中圏域(山中、河南、西谷、東谷)

プロジェクト拠点（拠点施設を設置する場所）

旧山中温泉医療センター跡地

主な機能を設置し、拠点施設への日常的な利用が見込まれるエリア

顔の見えるエリア・住民の日常的な利用が見込まれるエリア

【日常生活圏域図】



プロジェクト拠点

	年少人口	労働人口	老年人口	小計
温泉地区	225	1,237	1,158	2,620
河南地区	495	2,313	1,325	4,133
西谷地区	84	564	435	1,083
東谷地区	25	163	139	327
小計	829	4,277	3,057	8,163

○旧山中温泉医療センター跡地概要

-旧山中温泉医療センター跡地に対する地域の要望

*『「山中温泉医療センター跡地活用」及び、「よしのや依緑園別荘再活用」に関する提言書』
山中温泉地域活性化懇話会(平成28年11月)より抜粋

(基本方針)

人口減少問題に鑑み、移住や定住の促進や多世代の市民が集い観光客等も含めた交流人口の拡大に繋がる、山中温泉地域の特色でもある温泉を活用した、シェア空間の整備を目指す。

(具体的事例)

- ◆ 温泉を利用したデイサービスセンター
- ◆ 温泉を利用した介護予防センター
- ◆ お試し移住や長期湯治を目的とした住居施設
- ◆ 学生や社会人の宿泊研修施設
- ◆ ガーデニングや有機野菜・草花・キノコ栽培等、子供から高齢者が交流を行いながら自然に親しむ共同農園
- ◆ 「山の駅」として、レストラン併設の特産品等販売所
- ◆ 子どもたちの遊び場や、女性専用の温泉利用のエステ等、リラクゼーション施設

旧山中温泉医療センター跡地の利活用について（案）

課題と今後の方向性

- 市内でも高齢化率や独居率が特に高い山中温泉地区に所在する山中温泉医療センターは、市民病院の再編・統合に伴い、平成28年4月以降は診療所へと機能を縮小するため、山中温泉地区における住民の健康・福祉に係る不安解消に向けた政策が喫緊の課題。
- このため、病院跡地を利活用する形で、医療、福祉、住まい等の複合的な機能を担う新たな多世代型の地域交流空間を創出することとしてはどうか。

イメージ

診療所



高齢者住宅



温泉を活用した運動の場
(幅広い世代の利用)



多世代交流カフェ



他の地域へのアクセス



○旧山中温泉医療センター跡地概要

-敷地内資源

(山中温泉ぬくもり診療所)

○指定管理運営

内科、小児科を中心とした診療の実施

温泉治療(プール・浴室)

児童デイサービス等を実施

(サービス付き高齢者向け住宅) ※デイサービス(定員18名)を含む

○民間運営

30戸

(北陸大学 山中町セミナーハウス)

○加賀市から北陸大学に貸与

宿泊室60室

研修室、ライブラリー等

-敷地周辺公共施設等

加賀市山中温泉支所、山中温泉文化会館、山中温泉菊の湯

山中中央保育園、山中ふたば保育園、加賀市立山中小学校、加賀市立山中中学校、

山中学校給食センター、山中健民体育館、山中弓道場、

やまなか老人福祉センター、小規模特別養護老人ホームつかたに、

さわらび福祉会やまなか、はるるデイサービスセンター、学童クラブつかたに

共同売店



元気な中高年齢者
向け賃貸住宅等



若者向け
シェアハウス



こども広場



地域交流スペース



定期市



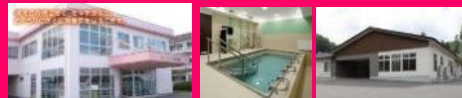
共同農園



コワーキングスペース



拠点
候補地



診療所、温泉（治療）
サ高住、北陸大セミナーハウス

温泉（健康増進）



直売所



○目標設定の考え方

◆移住者数(含近隣住み替え)

「生涯活躍のまち」づくりを行う上で必須となる域外からの流入者数の設定

- 中高年齢者向けの賃貸住宅、若年層向けのシェアハウス、子育て世帯向けの分譲住宅・賃貸住宅等の入居者による増加
- 事業運営主体の雇用拡大による増加

◆拠点交流人口数

「生涯活躍のまち」づくり拠点における、住民の関係強化の成果を示す数値の設定

- 温浴施設を含む健康増進施設、カフェ・レストラン、直売所
コワーキングスペース等の拠点で提供するサービスの利用者
- 拠点および周辺機関等との連携で行う福祉サービスの利用者
- 拠点で勤務する就業者(ワークシェア等含む)

◆拠点等プロジェクトでの新規雇用数

新たに創出された就業機会(社会参画の機会)を示す数値の設定

- 地域交流拠点の運営を担う事業運営主体の従業員、拠点を核に提供するワークシェアや就労支援事業利用人数

◆地域活動参加人数

「生涯活躍のまち」づくりによる社会参画機会提供拡大を示す数値の設定

- 地域交流拠点周辺でのボランティア活動、地域イベントの参加人数

◆次世代育成事業等、他事業との連携数

地域の担い手育成、若年層の移住促進など、多事業との連携による効果拡大の取り組みを示す数値

- 「VISIONARY PLANNING WORKSHOP」、「ローカルベンチャー育成支援」、「若者等就労支援」等との連携数

○事業運営主体・実施体制

-事業運営主体の役割

- ◆地域交流拠点の運営(多世代交流の推進)
- ◆地域の見守り、生活支援サービス提供
- ◆社会参画の促進(ワークシェア等の就労機会、ボランティア機会等の提供)
- ◆住まいの提供
- ◆関連プロジェクトとの連携促進

-運営形態

民設民営を基本とする

-選定方法

公募を基本とする

-参考(想定される事業運営主体の例)

中高年齢者向け賃貸住宅事業を核とする法人

福祉サービス(高齢者福祉・障がい者福祉・保育・医療等)を事業の核とする法人
まちづくり会社(多様な担い手が連携して法人を設立) など